

令和6年 5月 9日

学校名 明生小学校

学校長名 葛西和巳

令和6年度 校内研究実施計画書

1 研究主題及び教科

研究主題	自分の考えをもち、聴き合う子どもをめざして ～伝え合い、深め合う授業を通して～
教科・領域	全教科

2 主題設定の理由

本校では、2022年度より「自分の考えをもち、伝え合う子どもをめざして～ICT機器を活用した授業づくり～」という研究主題を設定し、全教科においてICTを活用した授業研究に取り組んだ。ICT機器を児童の実態や学習単元の特徴に沿って使い分け、授業づくりの幅を広げることで、自分の考えをもちやすくなったことが成果として挙げられる。

しかし、2023年度の研究の課題として、相手が何を伝えたいのか意図をくみ取って聴けない子どもたちや、自分の思いや考えはあるのに、それを相手にうまく伝えられなかったり、相手を意識せず自分の言いたいことだけを一方的に話してしまったりする子どもたちが多いたことが分かってきた。そのため、本年度は、相手を意識しながら聴き合い、伝え合う活動を大切にし、ともに学び合うことで、自らの力を高めていく子どもを育てる研究を進めていく。また、聴き合い、伝え合う力は、すべての学びにつながると考え、全領域で研究を進めていく。

また、学力等の認知能力の向上には、非認知能力の向上が不可欠であることが分かってきている。非認知能力とは、学力とは異なり、意欲や協調性、忍耐力といった、数値で図ることのできない能力である。本校の子どもたちの課題として上記に挙げたものに加え、自主的に学ぼうとする力や、困難なことにも粘り強く取り組む力が弱いことが挙げられる。そこで、相手を意識した聴き合い、伝え合いをしていくことで、相手を大切にし、すべての子どもが学びに参加した学びとなる。自分が大切にされていると感じることで、学びに向かう意欲や協調性、忍耐力などの非認知能力が育まれると考える。

3 研究内容及び方法（具体的な手立てまで詳しく書いてください）

【具体的な方策】

1 学び合う関係・聴き合う関係の構築

①聴くことの価値づけ・意味づけ

聴くことの価値は、多角的・多面的に考え、自分の学びを深くすることにつながると思う。家庭で一人で学習するのではなく、学校で学ぶことは、仲間の考えや思いを聴き合い一緒に学ぶことが人とつながって課題を解決していく経験につながると思う。このように聴くことの価値づけ・意味づけを日々子どもたちに伝えていくことで、学び合う関係が築かれていくと考える。

②学習形態のねらいの明確化

対話的な学びを深めるために、複数の学習形態を活用する。

前向き 2 列・・・・一斉指導により、課題の共有を全体でする場合

ペア・グループ・・・・少人数で聴き合い、自分の考えを確かめたり深めたりする場合（4 人まで）

コの字・・・・クラス全体で相手を意識して聴き合う場合

③聴き名人・話し名人・声のものさし

学校全体で、相手を意識して聴くこと・話すことを大切にするために、「聴き名人」「話し名人」「声のものさし」を統一して教室に掲示し活用する。

2 教師の働きかけ

子ども同士がつながりあって学び合う授業には、教師の適切な場面での、適切な働きかけが必要である。授業を行う際には事前に、子どもが間違えそうなところや、つまづきを想定し、どのように子どもたちをつなげて、課題を解決していくのかを教師側が準備しておく。

3 ICT 機器の活用（活動場面の意識的な位置づけ）

ICT 機器をどの場面で、どのように活用していくのかを検討し、目的を明確にして取り入れていく。また ICT を活用して、子どもの考えをつなげることで学びが深まるようにしていく。学び合いと ICT の活用をつなげるために ①情報を 2 人以上で共有する②情報を同じ目的（統合・分類・比較・関連付けなど）に沿って操作する、などの要素を学習活動のなかに設定することが必要だと考える。

4 授業力 UP5 を意識した授業づくり

授業づくりの基本として示している「授業力 UP5」を大切に授業づくりをしていく。

5 ノートづくり

その時間に学習した内容が分かるように、整理されたノートを目指す。

○ノートの使い方

①ノートを書く時には下敷きを使う。

②1 マス目に縦線を引き、インデントにする。縦線の左側には、ページ数や問題番号などを書く。

③書き始める位置に気を付ける。慣れるまでは、教師が書き始める位置を

教えていく。

④「めあて」を青色、「まとめ」赤色で囲む。

⑤問題と問題の間は一行空ける。

⑥直線は必ず定規で引く。

⑦間違えなどは、消さずに残しておく。

【学びを支える日常の取り組み】

1 モジュール学習

毎週火、水、金曜日には、朝の会の前に15分のモジュール学習を行う。モジュール学習の時間では、低学年は読書や教科の学習、中・高学年は国語の学習を行い、授業時数を確保するとともに、基礎学力の向上を図る。

2 読書活動の充実

- ・月に「低学年は6冊、中学年は4冊、高学年は2冊以上」図書館で本を借りることを目標にする。
- ・学期に1回、多読賞を設け、各学年10冊以上5位までを表彰する。
- ・図書巡回指導員と連携し、季節の飾りや楽しい本・学年の本紹介コーナーを作り、足を運びたくなるような図書館にする。また、ブックトークなどで並行読書にも取り組んでいく。
- ・学習委員会を中心に学期に1回イベントを企画する。

3 学力パワーアップ週間

平田野中学校のテスト期間に合わせて、年間5回行う。主な目的としては、学習習慣や生活習慣について親子で見つめ直す機会を設けることで、家庭学習や規則正しい生活への意識を高めることである。

4 家庭学習の充実

家庭学習のてびきを発行し、家庭と連携した取り組みを行う。同じ内容の宿題を複数回出すなど、児童が基礎学力を定着させるために工夫をし、その効果を学年や学校全体で共有する。また、クロームブックの持ち帰りに関しては、4～6年生は毎日持ち帰りを行い、授業の学習内容の予習・復習を行うことで、授業時間の確保もねらいとする。

5 「明生ノート」(自主学習ノート)

3年生以上で、専用のノートを1冊用意して取り組む。「家庭学習のてびき」をもとに、目的意識をもって取り組ませる。自主的に行うことで、自分に合った学習ができ、学習に対する意欲につなげる。

4 年間研修計画

一 学 期	4月19日 第1回全体研修会（研究の概要、指導案の書き方、家庭学習のてびき） 7月23日 第2回全体研修会（全国学力学習状況調査による本校の課題分析）
二 学 期	10月2日 第3回全体研修会（3年生研究授業、事後検討会） 11月11日 第4回全体研修会（2年生部研究授業、事後検討会）
三 学 期	1月中旬 第5回全体研修会（リフレクションシート交流会） 3月上旬 第6回全体研修会（今年度のふりかえり，来年度に向けて）

※1・4・5年生学年部研修実施予定